©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

32. 5. 7　朝日新聞（朝）

日本版 〝パグウォッシュ会議〟に寄せて

桑原武夫

「こんにち、この惑星（地球）上のすべての住民は、地球がもはや住めぬものとなるであろう日のことを考えねばならない。…戦争のための兵器は絶滅されねばならない――兵器が私たちを絶滅してしまわぬうちに」

これは昨年九月、国連におけるケネディ大統領の言葉だが、もしこれがフルシチョフの口から出たとしても少しも不自然ではなく、また地上のなんびともこれに反対しないであろう。黒人の言葉としても、白人は賛成し、仇敵（きゅうてき）のパキスタン人とインド人がともに同調するにちがいない。科学的真理をふんまえた人間的真情の言葉だからである。

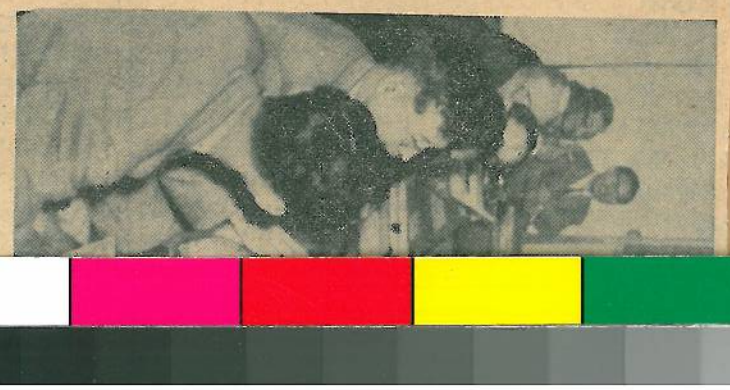
しかも、ソ連のあとを追って最近アメリカは、核兵器の実験を再開した。私たちはそれに抗議しつつも、大統領のさきの言葉を出ますすとはかぎらぬことを経験的に示すこととともに、科学者の責任であろう。

パグウォッシュ会議が、決して一方の陣営に偏することなく、また平和へのかたい信念をもちつつも、またもう故に、性急さを避けて、つねに科学的説得につとめてきたことに、私は感服し、その精神にしたがってきたつもりである。今年の夏ロンドンで開かれる第九・第十回会議は、一そう研究範囲をひろげ、科学者の責任、世界の安全の問題、科学の後進国援助などを論ずると聞き、その成果を期待していた。

ところが湯川、朝永両君から、このパグウォッシュ会議の精神を生かし、またはるかに支援する意味で、その日本版をおこし、自由に討論を試みたいので参加しないかと誘われたので、私は即座に引受けた。いうまでもなく、私はその方面の科学知識は皆無にちかく、といって国際政治にくわしいわけでもない。ただ私は私なりに世界平和のために微力をつくしたいと念願していることと、湯川、朝永両君とは中学時代からの友人であることが、参加資格といえるかも知れない。他の参加者も存じ上げている人が多い。

私は積極的提言の用意はないが、諸氏の発言を聞きつつ、気軽にしゃべりたい。問題が重要なだけに厳密しくなって、ゆたかな発想をさまたげるようでは困る。そう思うと、私にも参加理由は出てきそうに思われる。それくらいの気軽さで出かけたい。

（京大人文科学研究所長）



科学者京都会議

「和平」

c092-015-007

c092-015-008